■ 大学の理念

日本大学教育理念　「自主創造」　　自ら学ぶ　自ら考える　自ら道をひらく

医学部教育理念　「醫明博愛」

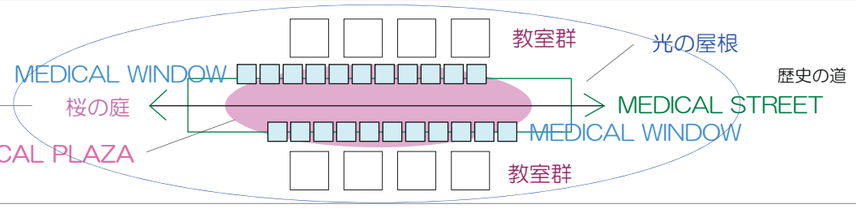
＜　医学･医療に光をあて、病める患者に真摯に向き合う　＞

■イノベーションコモンズ〈共創拠点〉の実現

計画コンセプト

COCOON〝繭〟

医師の卵を孵化する
学びの場



課題1:（配置計画）ロケーションからゾーニングへ

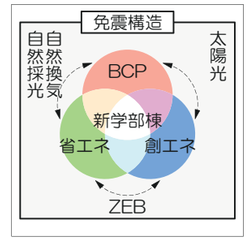
- 新学部棟敷地の南北軸を通り抜けるアトリウム（ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾄﾘｰﾄ）を計画の基軸しアトリウムを挟んで東西に各教室群を配した構成とします
- 社会医学一般教育棟を教室群のひとつとして捉えた配置とします
- 敷地の高低差を利用した計画建物入口は2階レベルの既設連絡通路の接点とし、3階レベルに歩車分離のための空中連絡通路（ヒストリーロード）をつくることで新病院との施設ネットワークを構築します

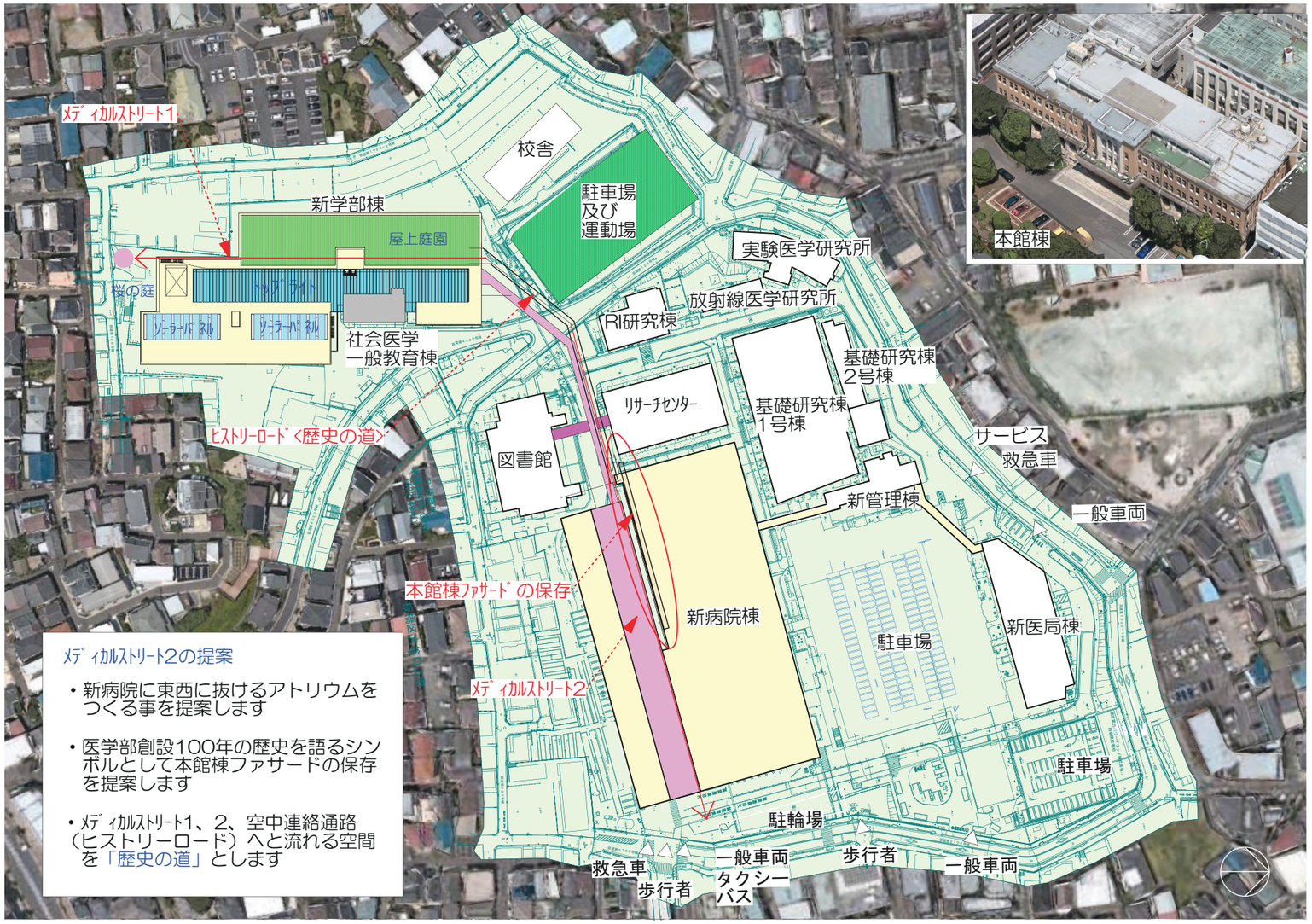
課題2：（空間構成）包摂的教育と研究を教授する空間構成へ

- 光の屋根　：１００年の歴史を表現する100m連続するガラス屋根の半屋外空間を構成します
- ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾄﾘｰﾄ　：「教育空間」と「歴史の流れ」のシンボル空間
- ﾒﾃﾞｨｶﾙｳｲﾝﾄﾞｳ　：「自主創造」を表現する自分・自分達で考え場の小教室、自習室を施設の中心として構成
- ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌﾟﾗｻﾞ　：学生達の交流・情報交換、吸収の場
  南側の桜の庭へと連続する憩いの場
  災害時の活動拠点となります

課題3：（事業継続計画）自然災害から環境対応までの事業継続計画へ

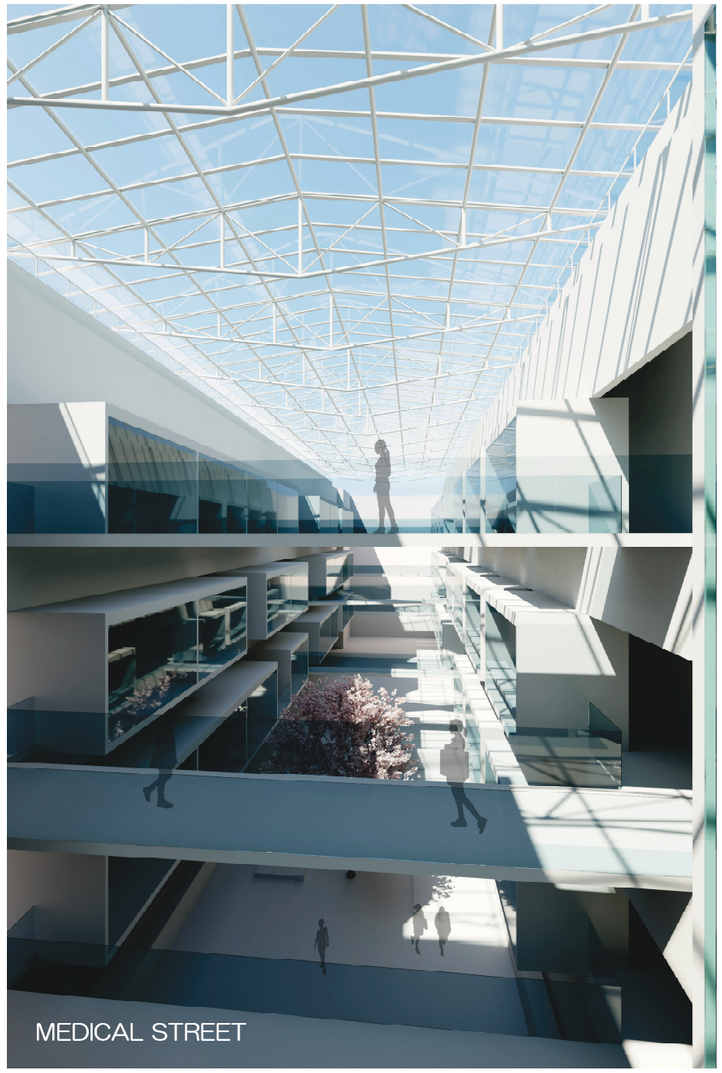
- 災害時の事業継続を確保するため、また施設の保護、什器、備品、機械類の保護のために施設全体を免震構造とします
- 環境対応のための技術の取り込みが、災害時のｴﾈﾙｷﾞｰ確保に繋がる構成とします
- 自然換気、自然採光（全室自然採光）、再生ｴﾈﾙｷﾞｰを確保します
- 時代の変化に柔軟に対応できるユニバーサルな計画とします
- 災害時の病院の補填機能を果たす学部棟の計画とします





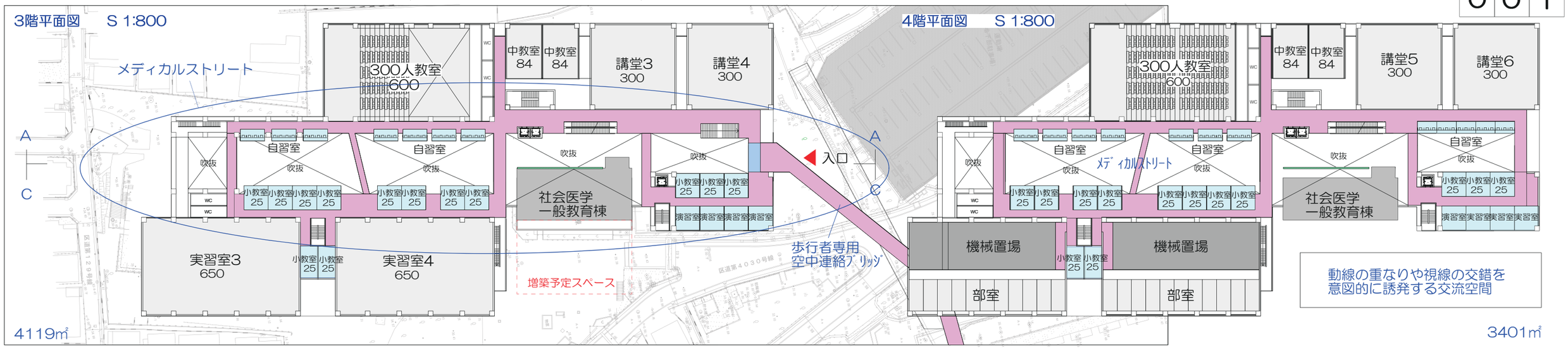
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾄﾘｰﾄ2の提案

- 新病院に東西に抜けるアトリウムをつくる事を提案します
- 医学部創設100年の歴史を語るシンボルとして本館棟ファサードの保存を提案します
- ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾄﾘｰﾄ1、2、空中連絡通路（ヒストリーロード）へと流れる空間を「歴史の道」とします



001

3階平面図　S 1:800



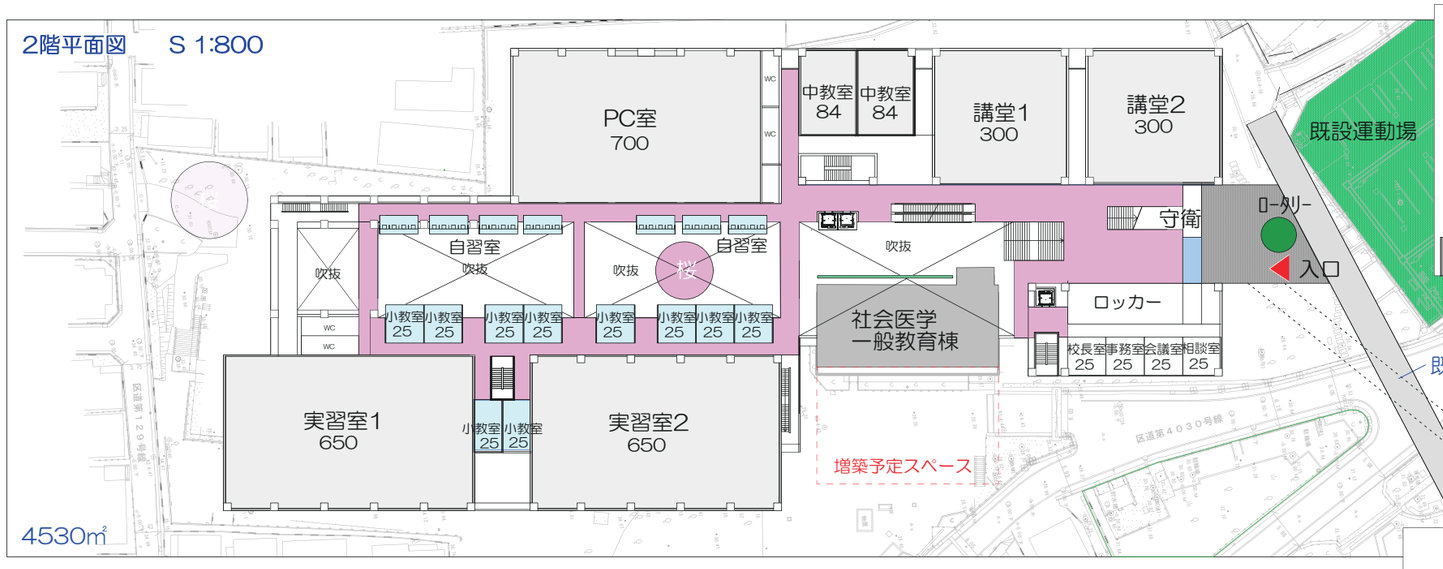
4119㎡

4階平面図　S 1:800

動線の重なりや視線の交錯を
意図的に誘発する交流空間

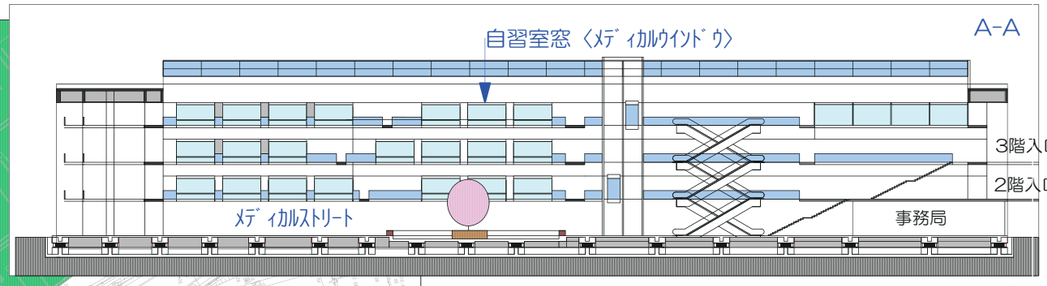
3401㎡

2階平面図　S 1:800

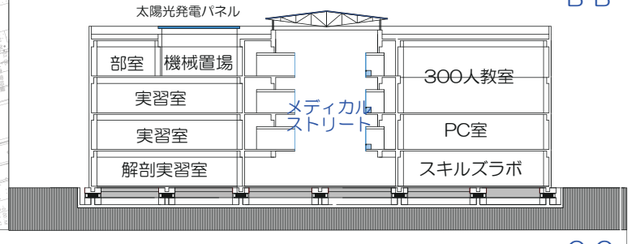


4530㎡

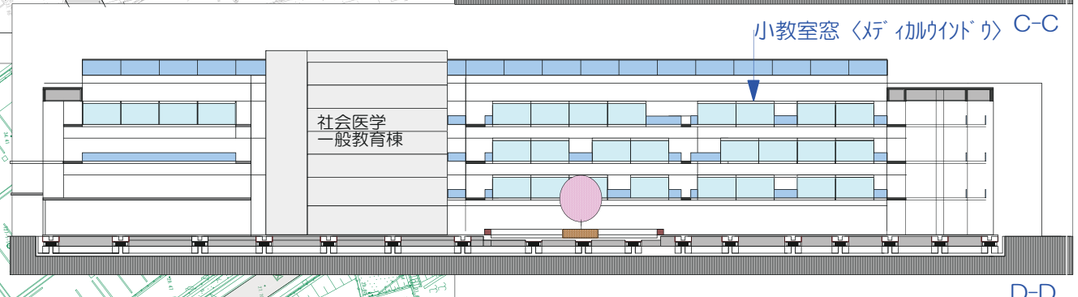
A-A



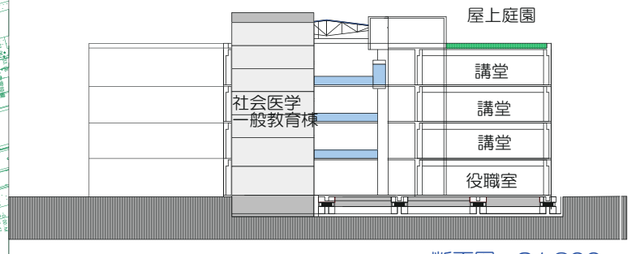
B-B



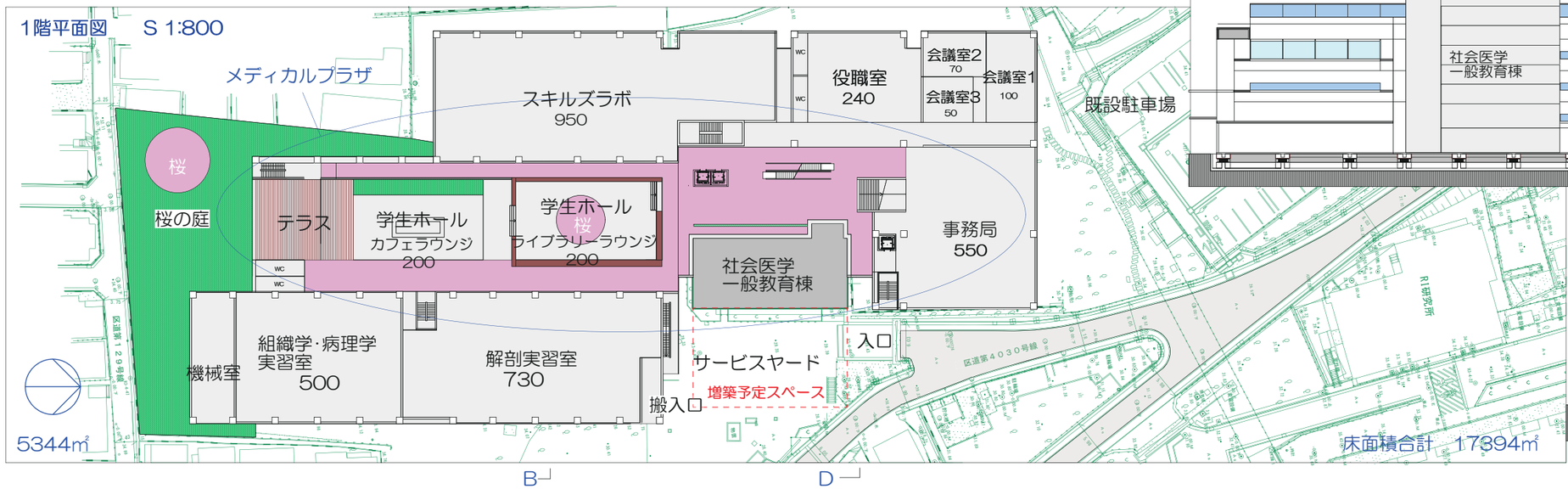
C-C



D-D



1階平面図　S 1:800



5344㎡

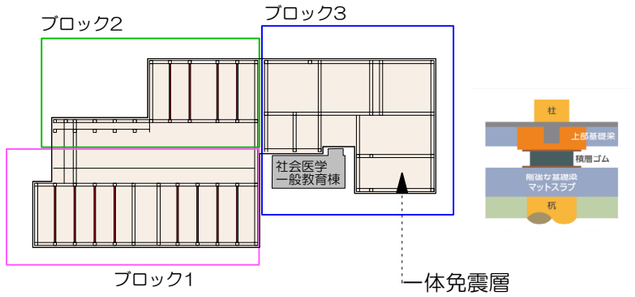
床面積合計　17894㎡

断面図　S1:800

耐震性

・建築計画は施設中央付近に設けた吹抜け空間（メディカルストリート）によって建築全体が3ブロックに分割された形状になっています
構造的に分割されたこれらの棟の基礎を一体化して免震地盤を造り、その上に各棟を支持するものとします
これにより各棟の免震性能を高めるとともに、それらを連結する渡り廊下や吹抜け上部ガラス屋根の安全性向上を図ります

・構造種別は、通常の広さの部分はRC造、無柱大空間部分は柱をSRC造、梁をS造として経済性を図りながら性能を満たします



BCP

災害拠点としての病院の医学部棟として、3日分（72時間）業務が継続できるように設備を計画します
設備のみでなく事業継続性を実現する「構造クライテリア」と、各リスクにおける適切な設備配置を計画します

地震リスク
・構造体
・非構造部材
・設備機器

・免震構造の導入
（空調配管等の破損リスク低減）
・帰宅困難者受入スペースの確保
（講堂・小、中教室等、防災倉庫）
・受変電設備及び、非常用発電機は屋上に設置
・受水槽、雑用水槽の整備

停電リスク
・電子機器・防災機器
・空調・照明・通信・ポンプ

・非常用発電機からの給電（72h）
給水ポンプ、排水ポンプ　・太陽光発電
・受水槽に蛇口の設置　・携帯電話充電対応

水害リスク
・設備機器
・通信

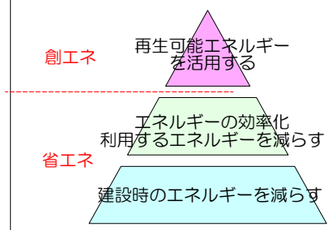
・防潮板等の設置
・受変電設備及び、非常用発電機は屋上に設置

上下水の破断リスク
・飲料水
・便所

・緊急排水槽、飲料水、トイレの提供（72h）
・雨水貯留槽、雨水中水利用、井水利用

ZEB

「メディカルストリート（吹抜け部）」や「広い屋上」を利用した省エネ・創エネ・室内環境を配慮した計画で、「ZEB Ready」の実現を目指します



広い屋上を利用した太陽光パネルの設置
学生が利用できるリフレッシュスペース

「開けた吹抜けとトップライト」による自然採光と重力換気
人員状況に応じた照明・空調制御システム
高効率空調、LED照明、Low-Eガラス、ノンフロン断熱材

低炭素コンクリートの活用
廃棄物3R対策の徹底
（配管材のプレカット、仮設資材の再利用、分別の徹底等）

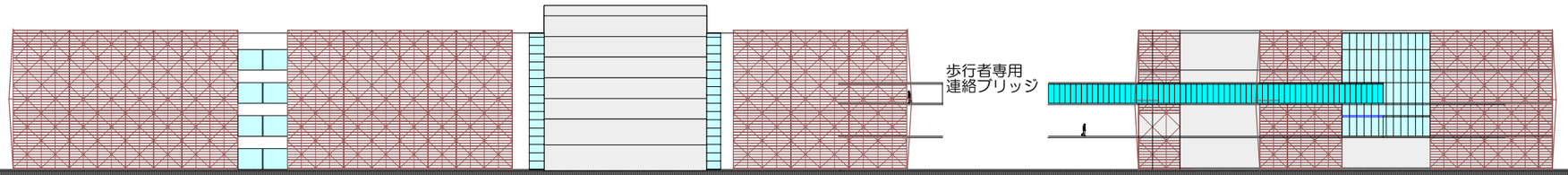
DX

教学DX化を目指し、デジタル端末の活用ができるネットワーク環境の整備、データクラウドによる学生生活・学修支援のためのデータ集約を実施します
また、他学部・他施設・他専門家との交流を増進させる「オンライン教育体制」の充実化を図ります

DX化のみでなく、大学に来ることでしかできない体験（解剖実習等）「オフラインによる対面授業」をしたくなるようなハイブリッドで魅力のある学部棟を提案します

・クラウド型空調コントロールサービス
教学のみでなく、Lotを活用した設備管理システム「DK-CONNECT」を導入し、DX化を実現します

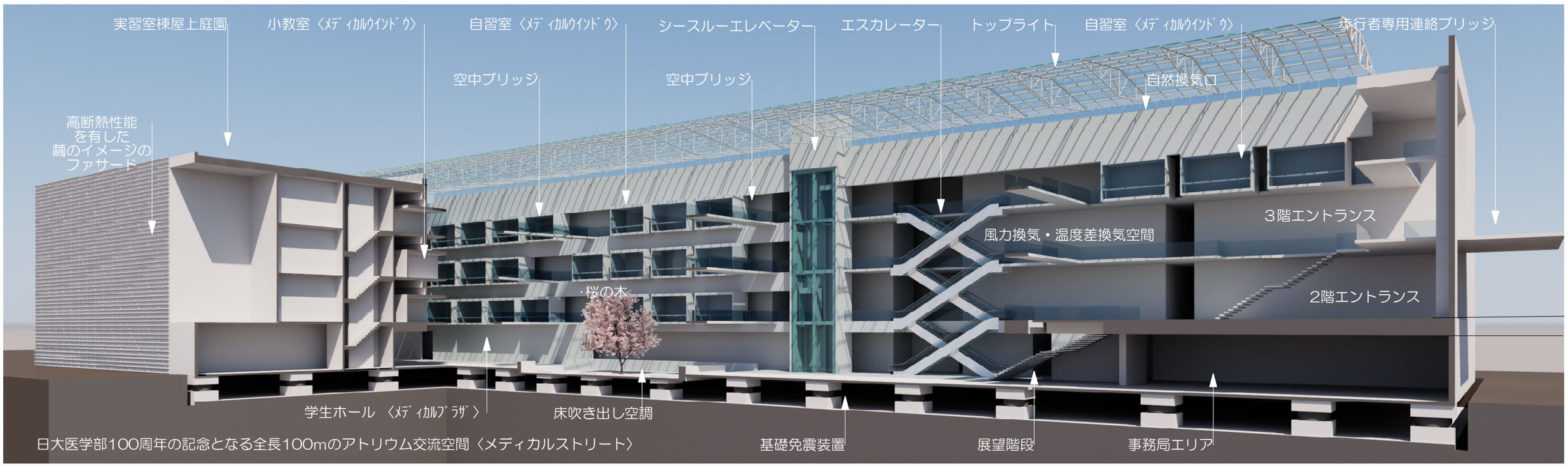
表装のﾃﾞｻﾞｲﾝは医師の卵を孵化する繭(ｺｸｰﾝ)のイメージ



東側立面図　S1:800

病院棟と3階レベルの歩行者専用連絡ブリッジで結ぶ

北側立面図　S1:800



日大医学部100周年の記念となる全長100mのアトリウム交流空間〈メディカルストリート〉

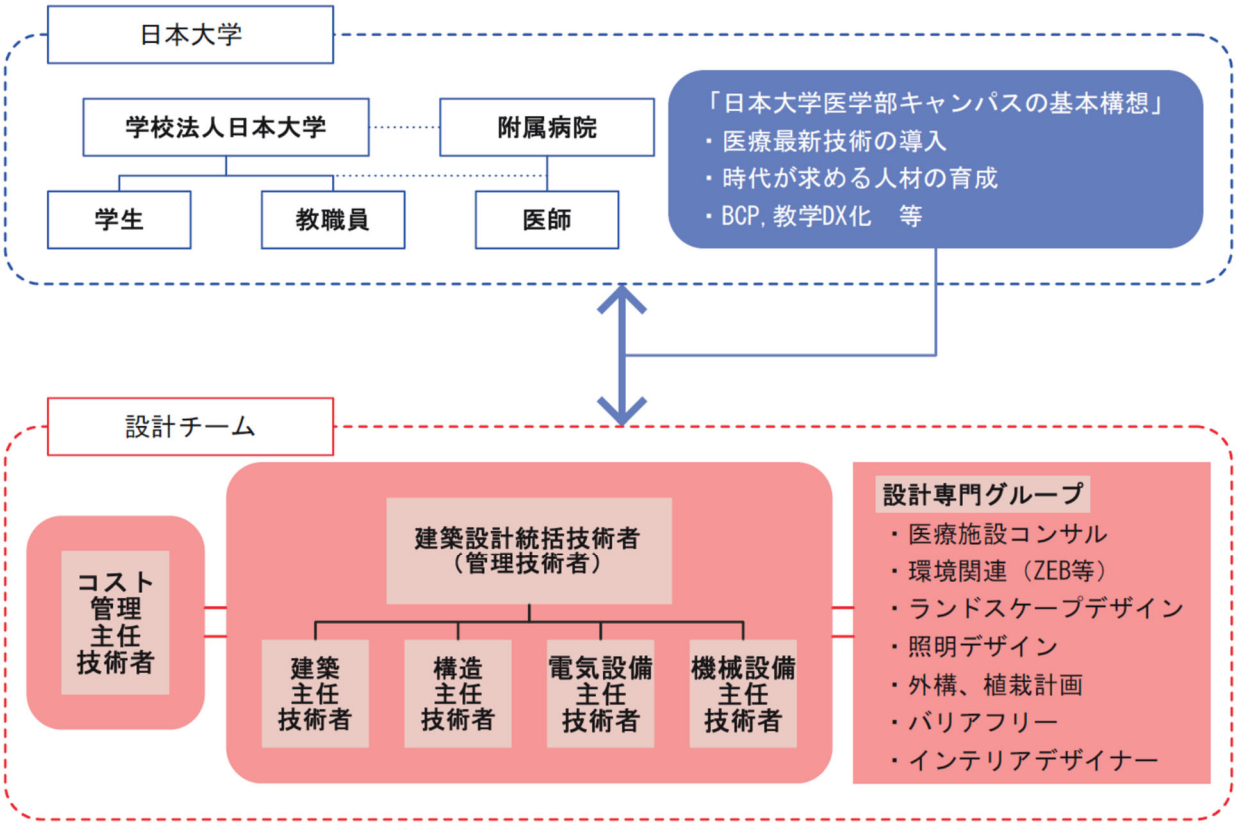
参加者番号

0	0	1

（様式９）**実施方針書**

〇取組体制

日本大学及び附属病院の基本理念を念頭に、実際に利用する教職員・学生に寄り添った新学部棟を計画します。「日本大学医学部キャンパス整備の基本構想及び報告書」を基に、「自主創造」を育む新学部棟を実現するよう取り組みます。



統括技術者と各主任技術者は、これまで多数の大学や病院の設計経験をしています。
医療器具の専門家、環境関連（ZEB、省エネ）、ランドスケープ、照明デザイン等の専門分野の事務所の中から適切な人員配置を行い、協力体制を整えることで細部まで緻密に計画された大学キャンパスの設計を行います。

〇設計工程・事業全体工期

設計工程において、発注者だけでなく、日本大学を実際に利用する方たちの意見をくみ上げ、フェーズ毎に適した設計提案を行います。
別紙に記載するコスト管理方針を基に管理を行い、工程への影響がないようにします。
全体事業工期を厳守するにあたり、建築計画等の調整に対して協力体制を組み、全体事業の遂行に向けて盤石な体制で臨みます。

参加者番号

0	0	1

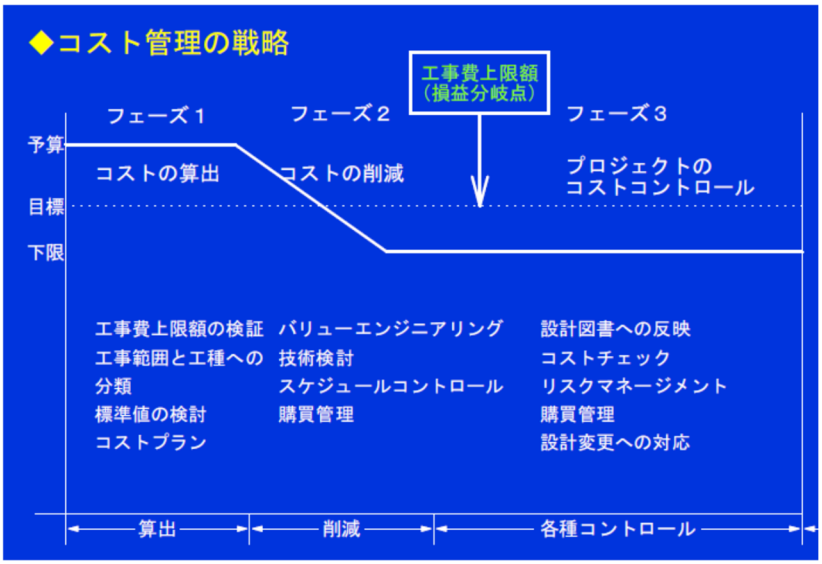
（様式 10）実施方針書（コスト管理）

コスト管理は３つの段階に分けて実施し、これをもって管理戦略と致します。

◆フェーズ１：コストの算出（基本設計）
・工事費上限額からコストデータベースや他事例のコスト情報を分析することにより当プロジェクトでの標準値を探り基準とします。
・検討図により調査市場単価を用いて建設工事費の概算を行います。
・コスト削減目標の決定及び削減策の検討とその選択をします。

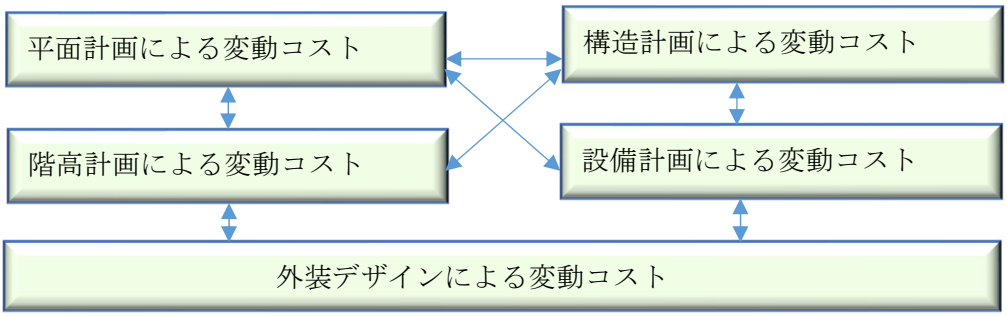
◆フェーズ２：コストの削減（概算）
・バリューエンジニアリング技術検討を行い、コストの削減を図ります。
・コスト決定要因、調達方式の分析により更なるコストの削減を目指します。

◆フェーズ３：各種のコントロール（実施設計・精算）
・フェーズ１、２　の実施結果により、必要な内容を設計図書に反映します。
・リスク対応の検討を行います。
・発注方式及び資材調達をより具体化します。
・コストチェックを行うことにより、現状コストを把握します。



左記表の段階を経て工事費上限額を下回る線へ導いていきます。

上記の流れに沿ったコスト管理を行い、計画内容に対して的確な市場実勢価格を反映することで、発注者・設計者及び受注者の三者が不利益を被ることなく、適正な価格帯で計画内容が実現できると考えます。具体的には、基本計画の段階から予測コストを設計にフィードバックし、基本設計から実施設計へと進む流れの中で、コスト変動の要因となる以下５つの側面から徹底したコスト分析と、コスト決定要因を把握した管理手法を用います。以下、



上記は常に相互の関連性を持っており、どれか一つ或いは二つが突出していると、コストバランスを欠いた施設となり、イニシャル、ランニングともにコストの増大に繋がります。それぞれのコストウェイトが一定の範囲にあることを計画初期の段階からモニタリングしていくことで、大切な資金を最大限に活かし、価値の高い大学施設にする事をお約束致します。